

ボランティアセミナー

- 趣旨** 青少年教育施設でのボランティア活動について目的や内容を理解するとともに、意欲を行動につなげる具体的な手立てを学び取ることで、ボランティア活動の実践力を身に付ける。
- 企画運営のポイント**
 - ・演習の内容を、実際に日高の事業でよく行う活動にすることで、ボランティアとして参加した際のイメージを持ちやすいようにした。
 - ・参加者が日高の職員の顔を覚え、また親しみを持って今後ボランティアに参加できるように、職員による講義を増やした。

期日 令和8年5月23日（土）～令和8年5月24日（日）

対象 ボランティア活動に興味のある高校生、大学生、社会人

人数 高校生16名 大学生22名 社会人2名 計40名

5月23日（土）

- 講義** : 青少年教育を学ぼう！
- 講義** : 青少年教育施設とは？
講師 国立日高青少年自然の家 次長 石山 浩幸
- 講義** : ボランティア活動の意義
講師 NPO法人 ezorock 代表理事 草野 竹史 氏
- 演習** : “火”の技術Ⅰ
- 演習** : “火”の技術Ⅱ

5月24日（日）

- 講義** : ボランティア活動の技術～ふりかえり～
- 講義・演習** : 作って学んで安全管理の基礎
講師 国立日高青少年自然の家 NEAL 主任講師 和泉 友喜
- 説明** : ボランティアって何するの？
- 説明** : 法人ボランティア制度について

参加者の声

- ・自分にはない気付きがいっぱいあってすごく面白かった。
- ・実際にボランティアをしている方々のお話を聞き、ボランティアに対する知見が深まった。
- ・アイスブレイクなど、実際に自分達でもできそうなものがあった。
- ・ボランティアに今まではあまり良いイメージがなかったが、ボランティア活動の楽しさを知ることが出来た。
- ・これまでボランティアに参加しても、子どもとの関わり方が分からず全く役に立てていなかったが、このセミナーに参加したことで少しだけ霧が晴れたような気がした。
- ・思っていた以上に、ためになる話が多くあり、将来に向けた糧になると思った。自分もやってみたいボランティアがいくつか発見することが出来た。

【成果・課題】

- ・事業アンケートの「ボランティアセミナーを受講して、ご自身の指導技術は高まったと思いますか？」の質問に対して、「説明を聞き、指導方法など新たなビジョンが見えた。」「これまで感覚や見よう見まねでやってきたことが文章化され、講義として受けることで新しい発見があった。」など、参加者の実践力となる力を養成することが出来た。
- ・その一方で、「指導について学ぶことはできたが、いざ自分が指導側に回った際に今日の学びを生かせるか不安」「理論としてはわかっても、実践をしなくては身につかないと思う」という意見もみられた。子ども相手に実践する機会を持つことは難しいが、参加者同士で模擬企画などを行う機会があっても良かった。
- ・事業アンケートの「ボランティアの指導・助言や対応はいかがでしたか」の質問に対して、「学生の人の話だったため、より身近な話として聞くことが出来た」「尊敬できる先輩だった」という声が聞かれた。実際に日高のボランティアをして活動している先輩ボランティアに話をしてもらうことで、今後のボランティア活動に対してイメージを持ちやすく、また参加者の「こうなりたい」という気持ちを生み出すことが出来た。

